

寒川町人口ビジョン
寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略
第 1 期（平成 27 年度～令和元年度）の振り返り

令和 2 年 11 月

目次

寒川町人口ビジョンの振り返り

計画期間における人口動態	3
全体の人口動態	3
年齢3区分別の人口動態	3
年少人口	
生産年齢人口（15～64 歳）	
老年人口（65 歳以上）	
男女別人口の状況	6
推計人口と人口実績の変動	7
人口変動における自然増減及び社会増減の状況	7
年齢別・男女別の社会増減の状況	8
【参考】近隣自治体との比較	9
【参考】近隣自治体における人口千人あたり出生数	
【参考】近隣自治体における人口千人あたり社会増減数	
計画期間における人口動態の現況と課題（まとめ）	11

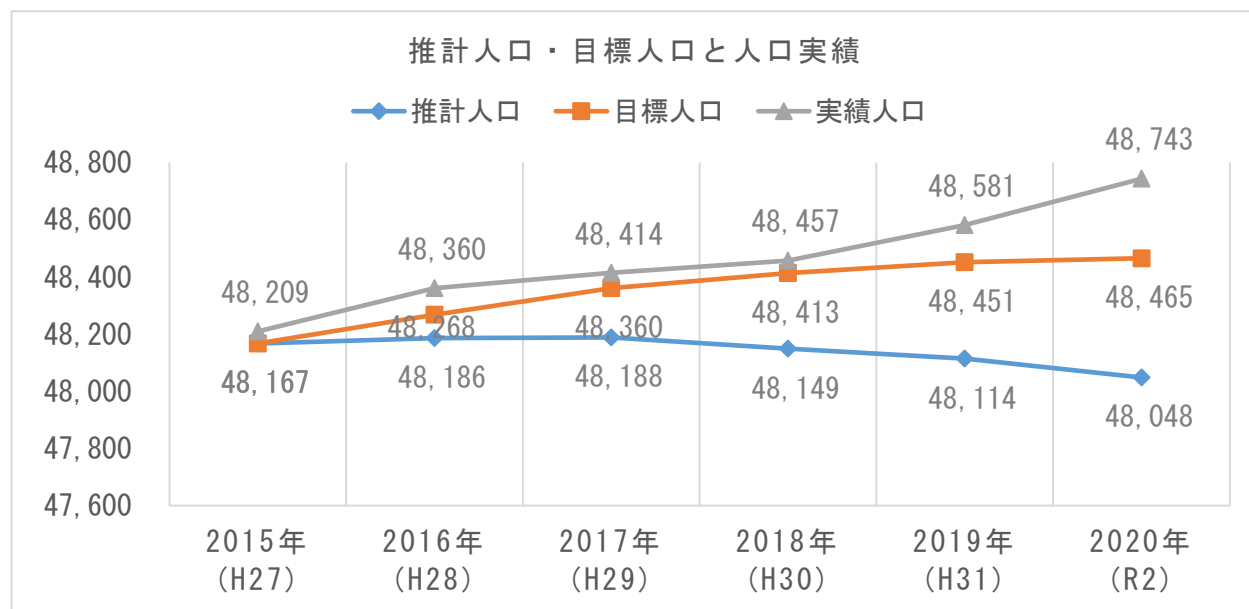
寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り

第1期総合戦略の成果（概況）	12
基本目標 1	12
基本目標 2	14
基本目標 3	15
基本目標 4	18
第2期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略への課題	20

寒川町人口ビジョンの振り返り

計画期間における人口動態

全体の人口動態



(寒川町住民基本台帳より、各年4月1日時点)

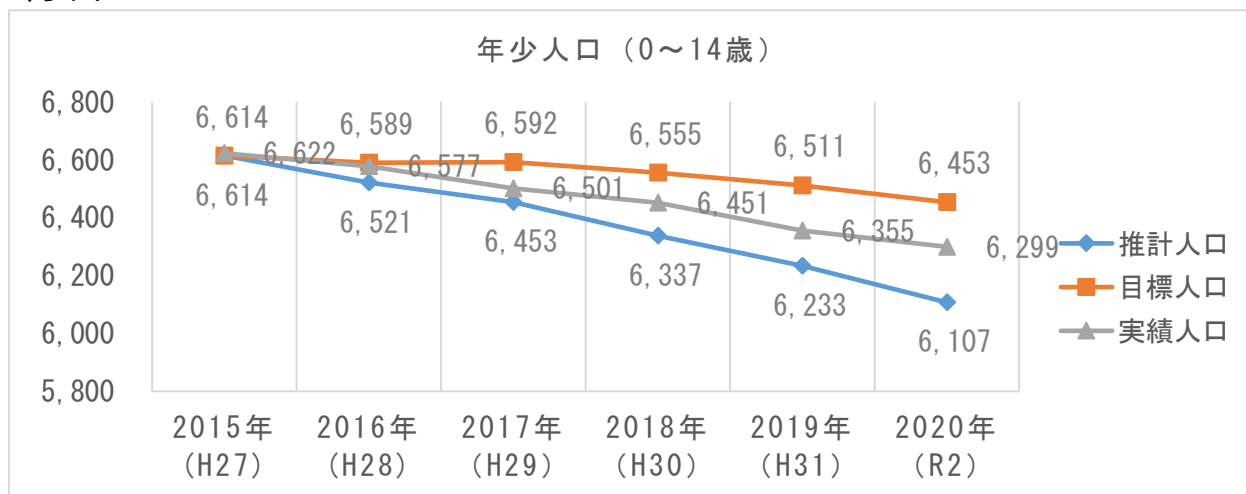
寒川町における人口動態として、2015年(H27年)以降人口は増加し、人口ビジョンにおける推計人口及び目標人口を超えて推移しています。

特に、推計人口においては人口の減少局面に入るとされた2018年(H30年)以降も増加傾向を示しています。2020年(R2年)4月時点における総人口の状況としては、対推計人口で695人(約1.4%)の増、対目標人口で278人(約0.6%)の増となっています。

このことから、全体の人口動態としては目標人口に対して順調に推移しているといえます。

年齢3区分別の人口動態

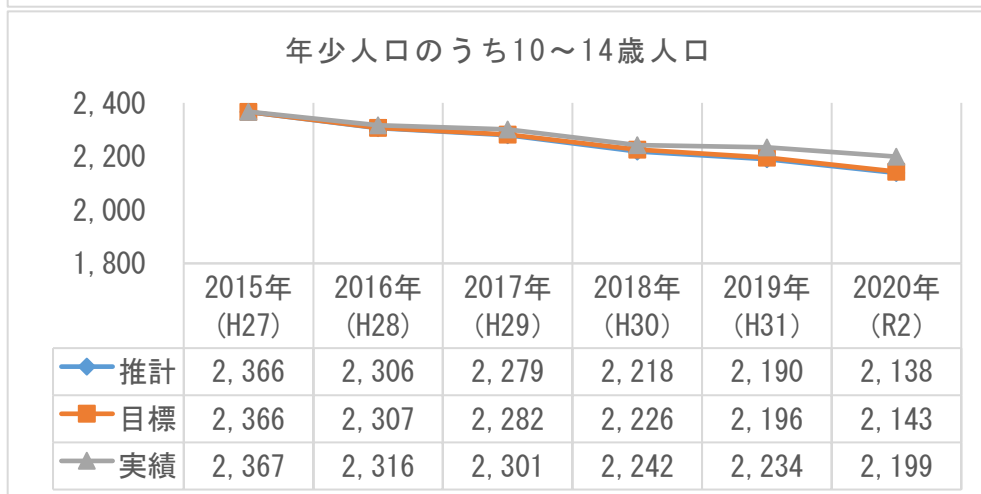
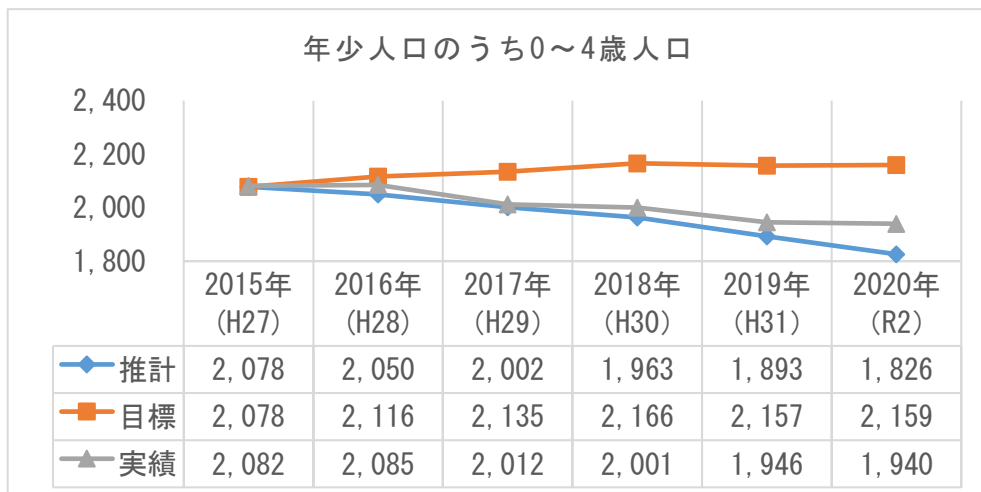
年少人口



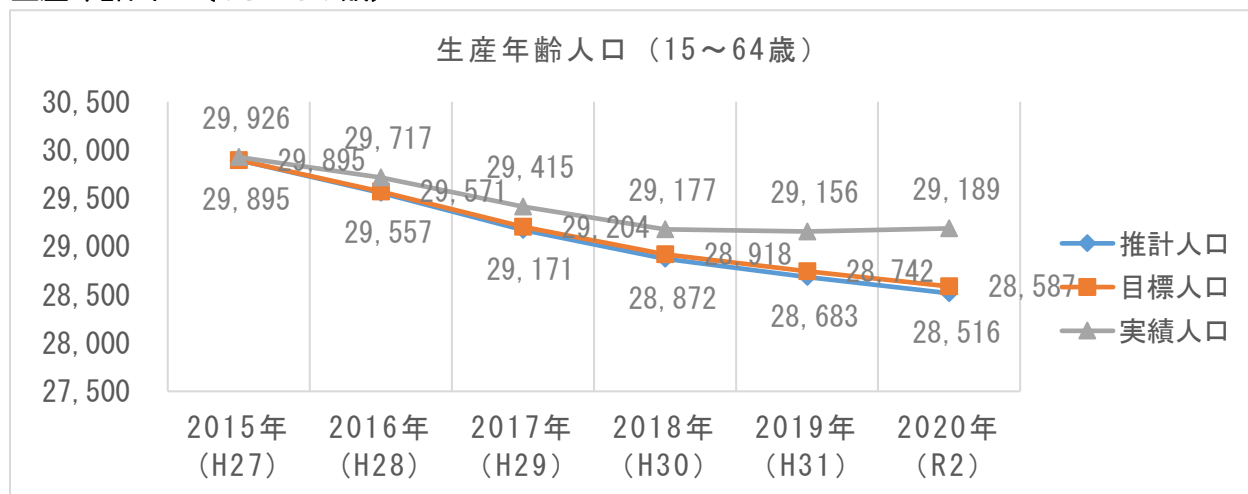
年少人口(0～14歳)では、当初推計と比較して推計人口は上回って推移しているものの、

目標人口には届かない状況となりました。この期間の全人口に占める年少人口の割合は、2015年時点で約13.7%であったのに対し、2020年時点では約12.9%まで減少しています。目標人口における2020年時点の年少人口の割合は約13.3%であり、目標より約0.4%のマイナスとなっています。

この年少人口における特徴的な年齢層（5歳区分）として、0～4歳の年齢層では目標人口を下回るものの、10～14歳の年齢層では若干ですが目標人口を上回る状況となっています。



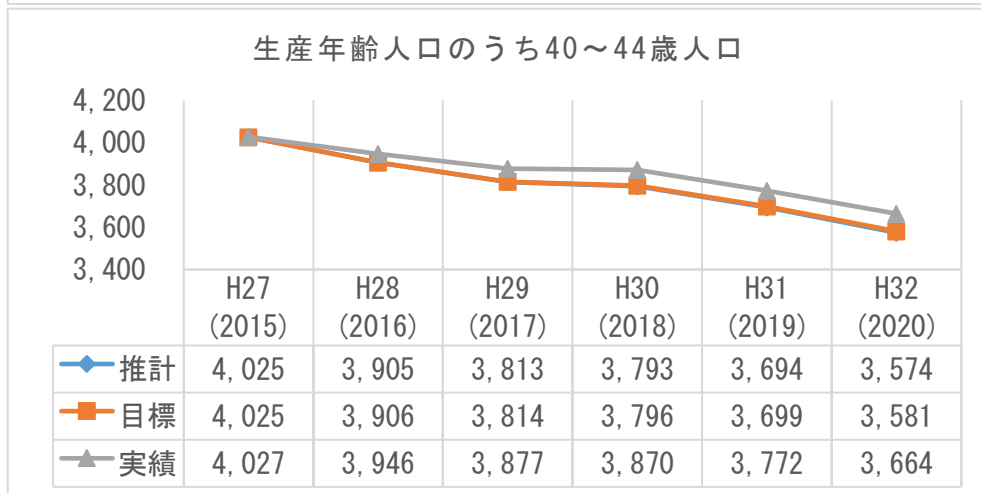
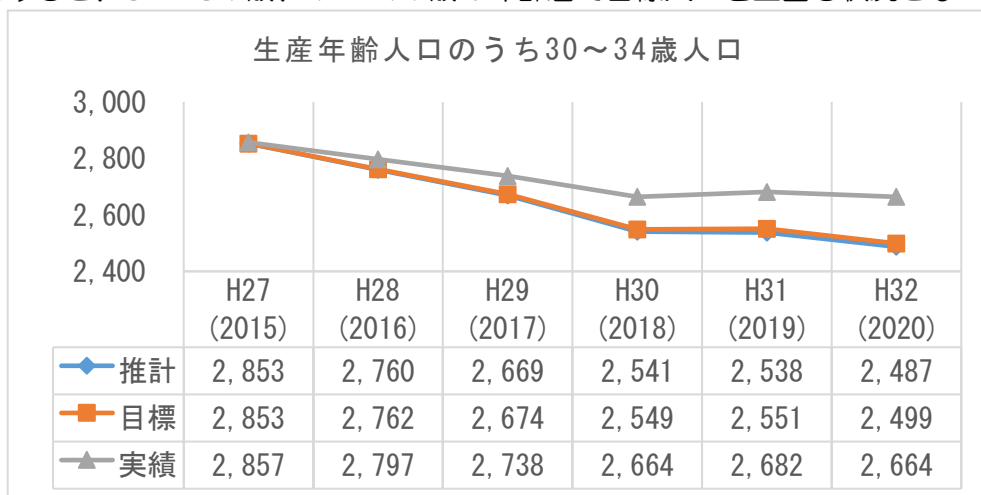
生産年齢人口（15～64歳）



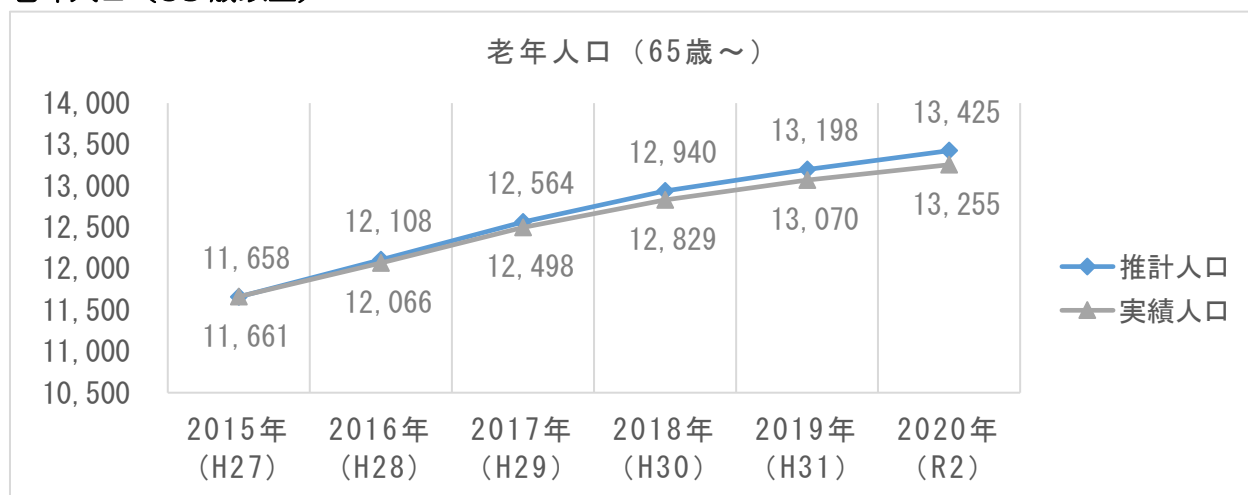
生産年齢人口（15～64歳）では、推計人口及び目標人口を上回って推移しています。特に

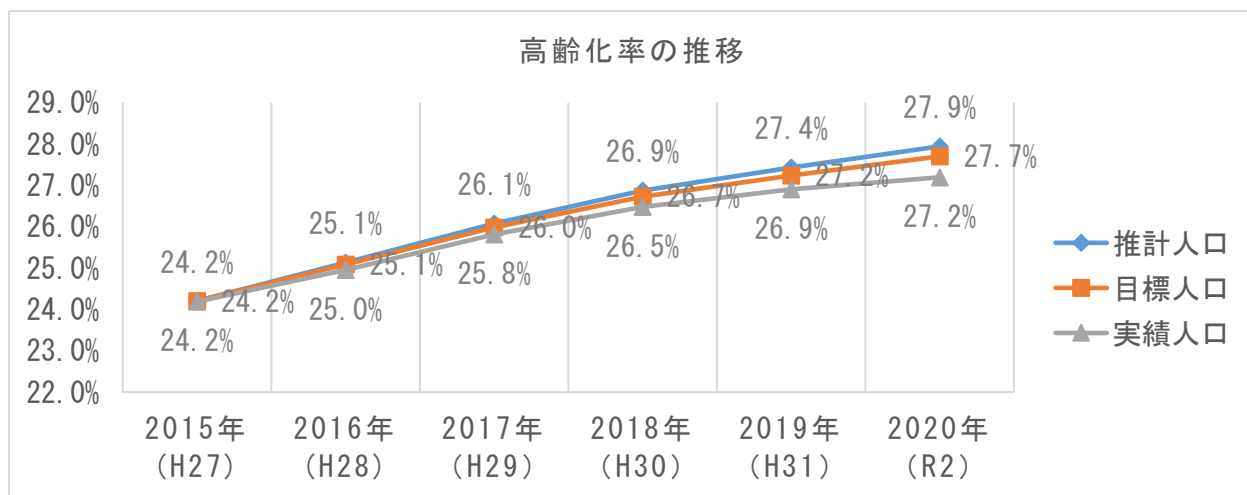
2019 年以降は、横ばい傾向、もしくはやや増加傾向にあり、2019 年、2020 年においては、目標人口からの超過幅が大きくなっています。この期間の全人口に占める生産年齢人口の割合は、2015 年時点の約 62.1%から、2020 年時点で約 59.9%まで減少しているものの、目標人口における生産年齢人口の割合 59.0%に対し 60.8%と、目標を約 0.9%上回る状況となっています。

この生産年齢人口における特徴的な年齢層（5 歳区分）として、さらに細かく 5 歳区分で見ると、30～34 歳、40～44 歳の年齢層で目標人口を上回る状況となっています。



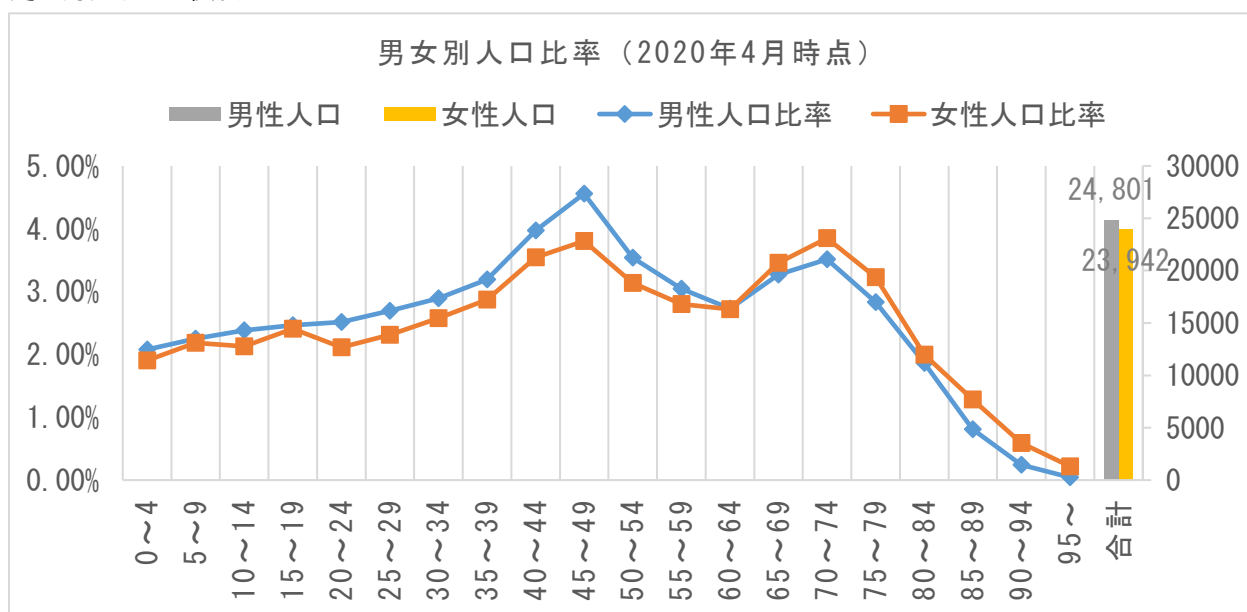
老年人口（65 歳以上）





老年人口（65歳以上、高齢化率）では、推計人口よりも少ない人口数で推移しています。この期間の全人口に占める老年人口の割合（高齢化率）は、2015年時点の約24.2%から、2020年時点で約27.2%まで上昇しているものの、推計人口における高齢化率（27.9%）、目標人口における高齢化率（27.7%）を下回って推移しています。

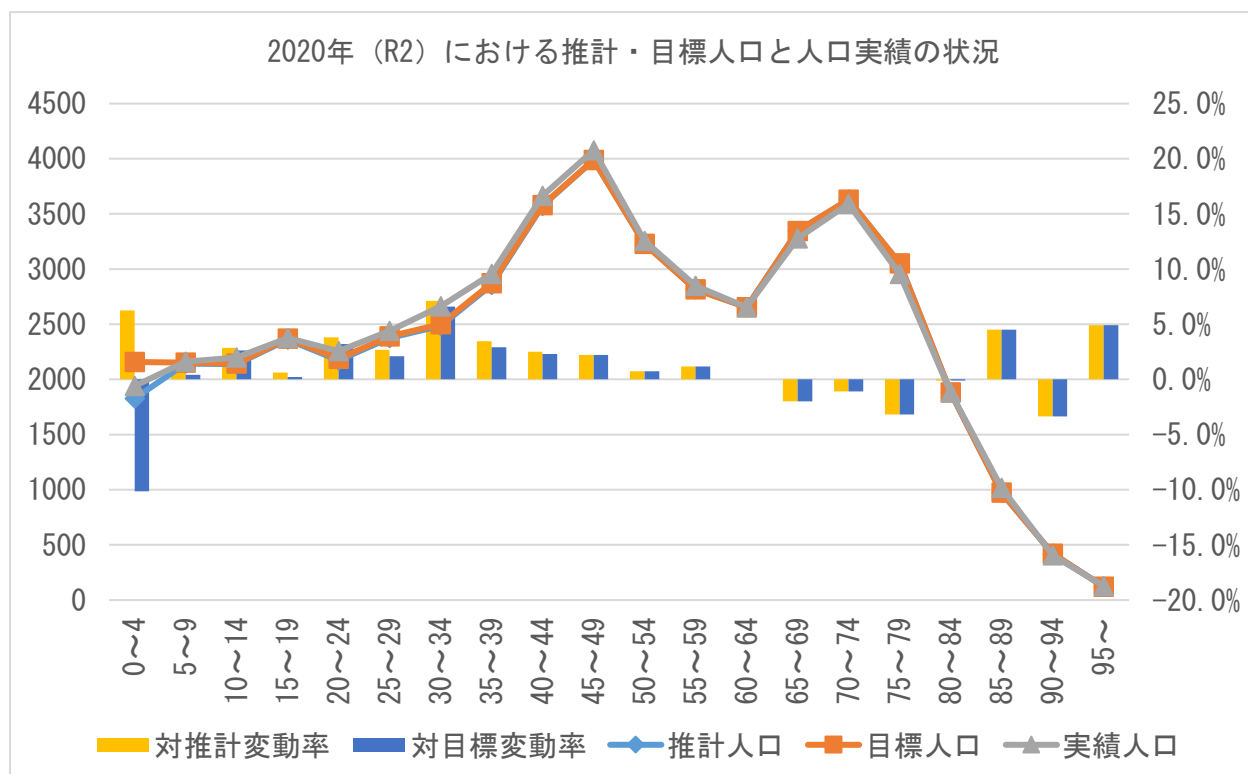
男女別人口の状況



寒川町における人口の男女別の状況としては、男性24,801人、女性23,942人（2020年4月時点）となっており、男性の人口が859人多い状況となっています。

また、全人口に占める各年齢の構成割合を男女別で示したものが上図（折れ線グラフ）となりますが、特徴として、0～19歳まではほとんど差が無いのに対し、20～24歳で大きな差が生まれ、それ以降生産年齢人口全般でその傾向が続く状況となっています。

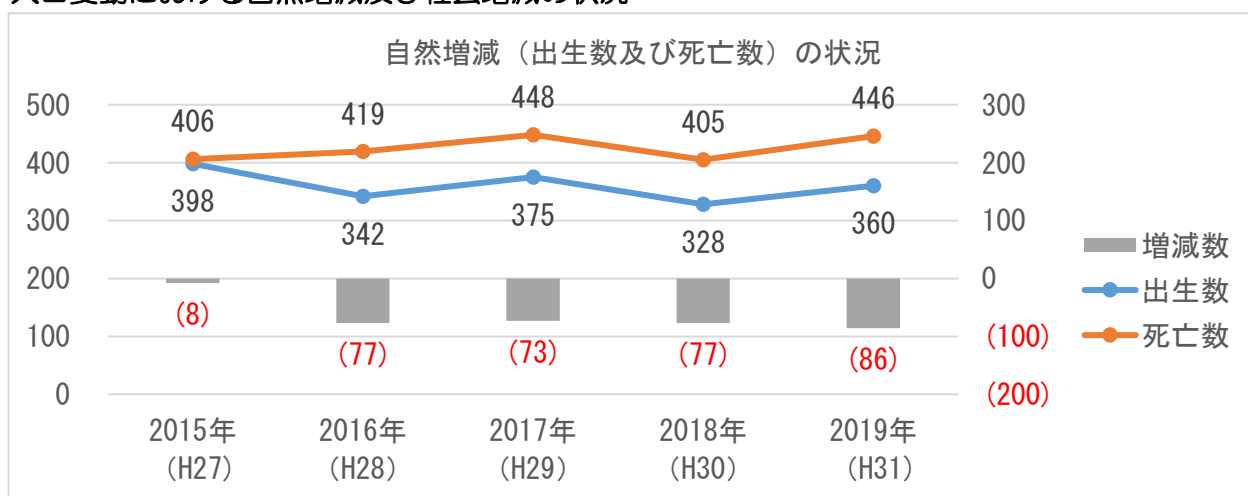
推計人口と人口実績の変動



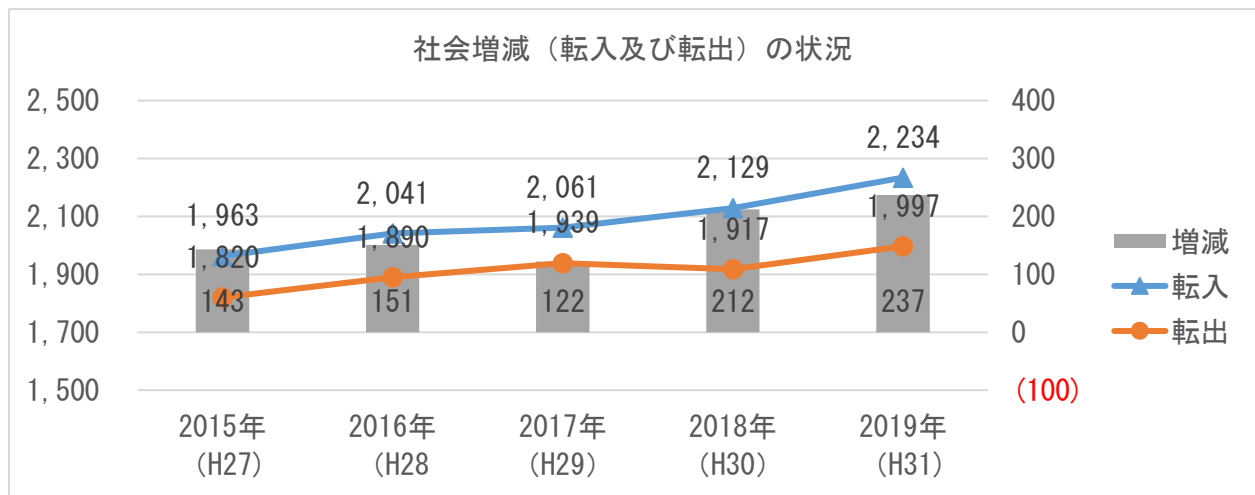
上図は、人口ビジョンにおける推計人口と目標人口に対し、実際の人口実績が、どのくらいの乖離で推移したのかを示したグラフです。推計人口・目標人口と人口実績の変動状況としては、この間の合計特殊出生率が目標値に達していないため 0～4 歳の層で目標人口を大きく下回っていますが、それ以外の年齢層では、年少人口・生産年齢人口共に目標人口を上回って推移しており、特に寒川町の地方創生にとってのターゲットである 20～39 歳の年齢層で目標人口を 5%前後上回って推移する結果となりました。

このことから、地方創生の観点からも、人口動態については順調に推移していると言えます。

人口変動における自然増減及び社会増減の状況



（寒川町住民基本台帳より、各年度 4 月～3 月の合計値）

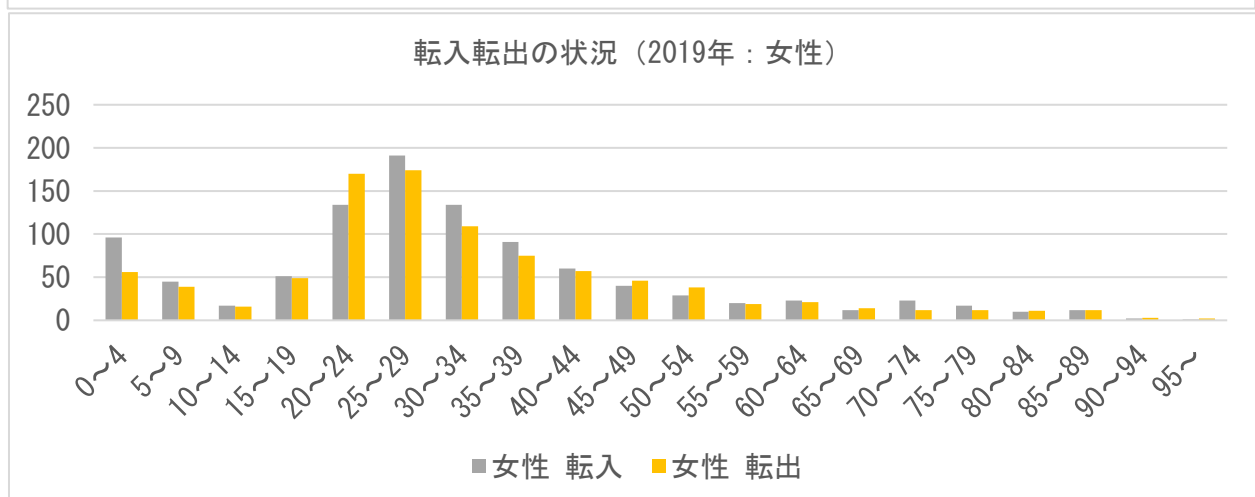
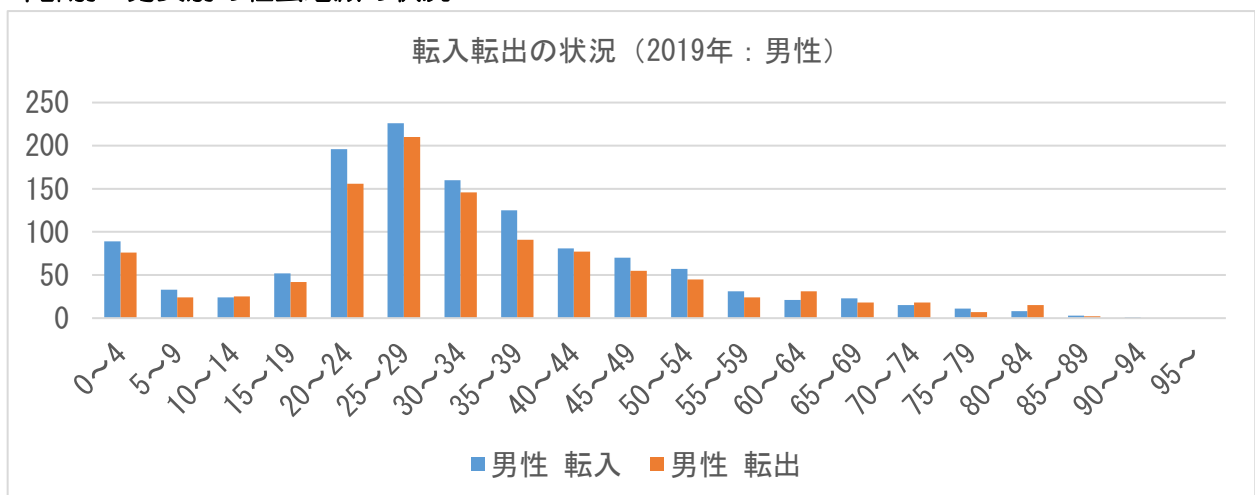


（寒川町住民基本台帳より、各年度4月～3月の合計値）

自然増減の状況として、出生数は2015年から減少傾向にある中で、2017年、2019年には対前年比で増となっています。しかしながら、死亡数は高齢化の進行により増加傾向にあり、2019年においては、自然減の傾向が大きくなっています。

一方、社会増減の状況としては、2015年以降、それまでの転出超過傾向から転じて転入超過の状況が続いており、特に2018年以降の転入超過傾向が顕著になっています。

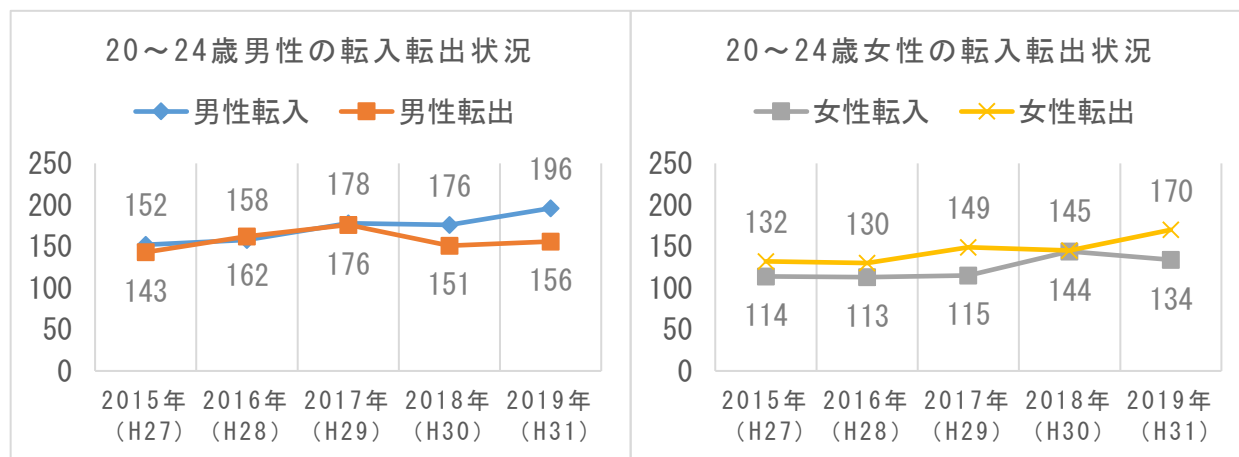
年齢別・男女別の社会増減の状況



転入転出の傾向として、男女ともに25～44歳までの年齢層で転入超過の傾向があります。ま

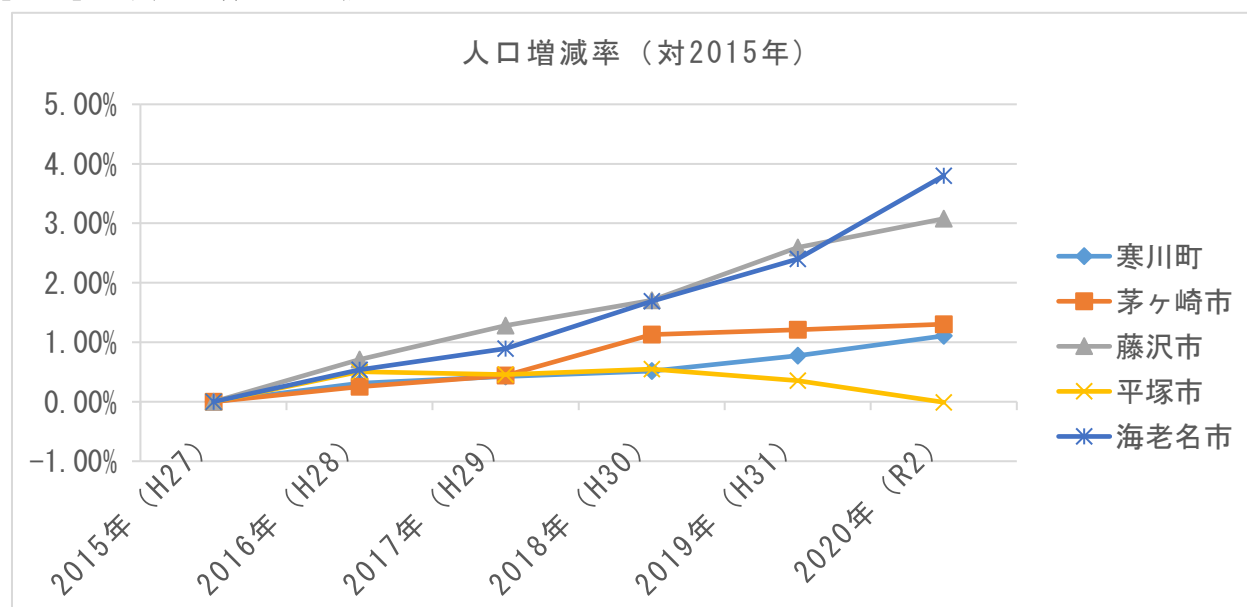
た、年少人口についても 0～4 歳の年齢層で転入超過の傾向が大きいことから、この年齢層を子どもに持つファミリー世代の転入が一定数転入しているものと推測されます。これは、結婚・出産を機にこれらのファミリー層が転入していることを表しているものと考えられます。

一方、男女別の傾向では、男性が特に 20～24 歳の年齢層で大きな転入超過傾向を示しているのに対し、女性の 20～24 歳では逆に転出超過傾向となっています。



6 ページのとおり、寒川町の人口構成を男女別で着目すると、20～24 歳以降の差が大きくなっており、これが、転出によるものであることが分かります。また、上図は男女別の 2015 年以降の転入転出（社会増減）の状況を示したのですが、男性では 2018 年以降転入は伸び、転出は収まっている傾向ですが、女性では転入はやや増加傾向であるものの、転出も増加傾向であることが分かります。このことから、就職等のライフステージの変化で女性が転出する傾向が強まっているものと考えられます。

【参考】近隣自治体との比較

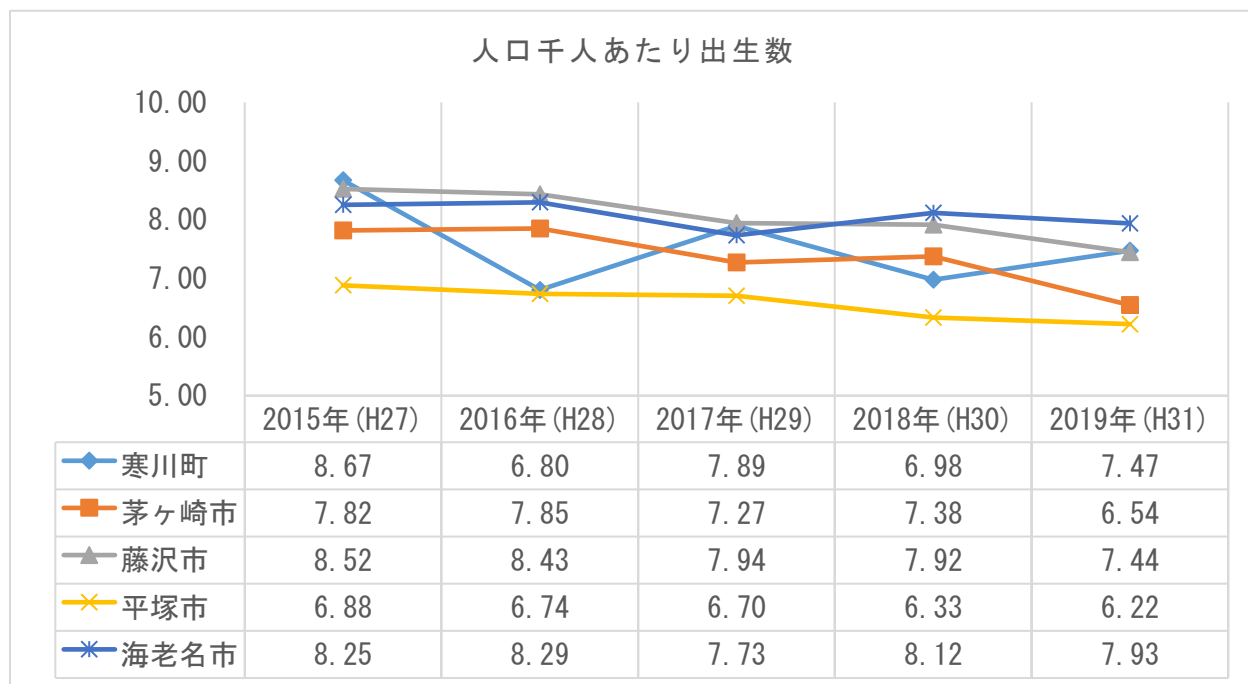


（各自治体の人口については各市 HP より引用）

寒川町は、周囲を人口 10 万人～40 万人の自治体に囲まれた立地です。地方創生における効果検証として、人口動態の近隣比較をするため、各自治体の 2015 年に対する人口を増減率で表したものが上図となります。藤沢市、海老名市の人口増加率が顕著ですが、地方創生に係る取り組みがスタートした 2015 年以降、寒川町の人口も漸増状態であり、2020 年時点では茅ヶ

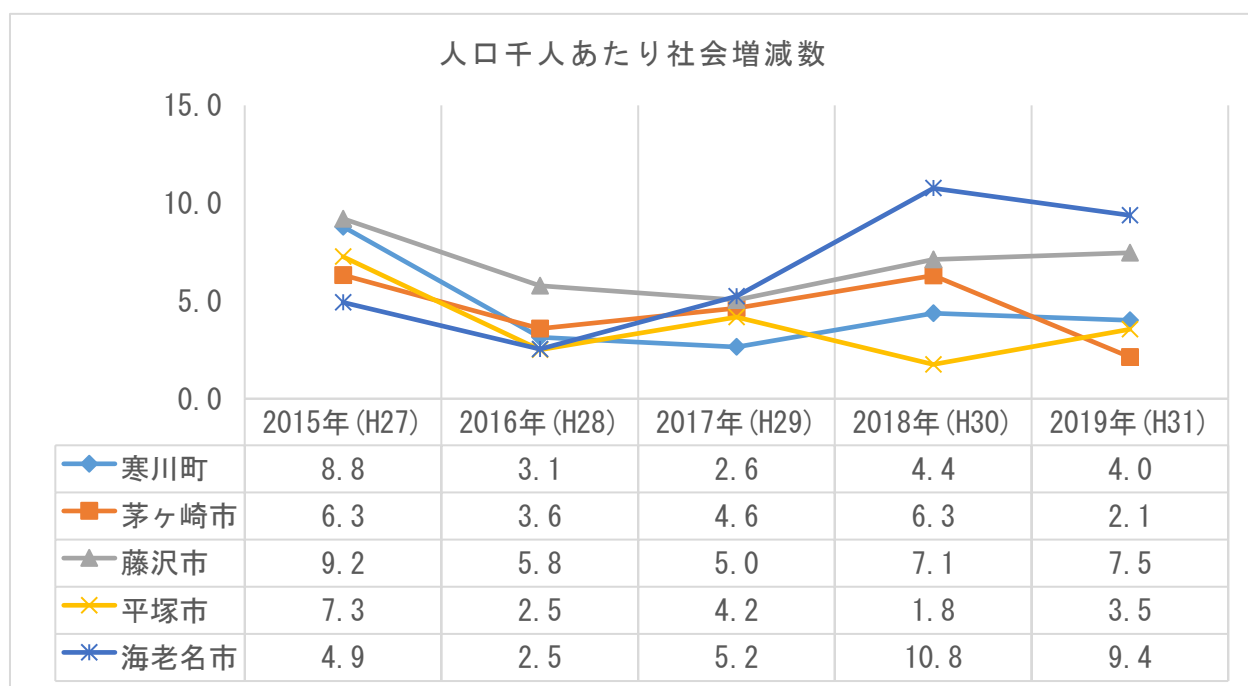
崎市とほぼ同様の人口増加率となっています。寒川町の人口動態としては、近隣自治体の動向も少なからず影響しているものと推測されます。

【参考】近隣自治体における人口千人あたり出生数



人口動態の内訳として、各自治体の出生数を人口千人あたりで比較すると、各自治体ともに減少傾向にありますが、寒川町の出生数は2019年時点で2番目となっており、また、他自治体と比べると人口が少ないため上下が激しくなっていますが、平均して高い水準で推移していると言えます。

【参考】近隣自治体における人口千人あたり社会増減数



人口動態の内訳として、各自治体の社会増減数を人口千人あたりで比較すると、各自治体とも

に社会増（0 以上）の傾向にあります。2019 年時点で寒川町は 3 番目となっています。また、量としては差がありますが、増減傾向としては藤沢市と似た傾向を示しており、海老名市、茅ヶ崎市とも一部似た傾向を示していることから、社会増減についてはこれらの自治体の動向も一定程度影響している可能性が推測されます。

計画期間における人口動態の現況と課題（まとめ）

【現況】

2017 年以降の寒川町の人口動態としては、2020 年 4 月時点では、推計人口・目標人口を超えて人口増加の傾向にあり、その内訳としても、生産年齢人口において目標人口を超過するなど、概ね順調に推移していると言えます。

一方、人口の増減要因については、社会増減は増加傾向にあるものの、自然増減は減少傾向にある状況です。

社会増減における主な増加要因としては、ファミリー層を中心に 30 代の親世代とその子供世代である 10 歳までの人口の転入が挙げられ、この背景としては町内におけるまとまった宅地開発なども影響していると考えられるほか、外国人人口の増加などもこの社会増の傾向を後押ししているものと推測されます。

また、近隣の状況としては、藤沢市、海老名市を中心に人口の増加傾向が続いていることと、特に社会増減については、藤沢市など近隣の動向と類似した傾向が見られることから、近隣自治体の状況も一定程度影響しているものと推測されます。

【課題】

一方、課題としては、出生の状況は近隣自治体と比較して遜色ないものの、年少人口としては目標人口に達しておらず、自然増の不足を社会増によりカバーする状況にある点や、転入転出（社会増減）の状況として、20 代の転出、特に 20～24 歳女性の転出（減少）傾向が目立つ点が挙げられます。

【まとめ】

- ・寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略期間における人口増加施策（特にファミリー層をターゲットとしたもの）は一定の成果を上げているものと推測されます。
- ・人口は増加しているものの、出生数は減少傾向（0～4 歳人口は目標人口未達成）であるため、依然楽観視できる状況ではありません。
- ・20～24 歳女性層を中心に、若者がライフステージの変化により寒川町から転出する傾向が少なからず継続していることから、将来の生産年齢人口を町内に引き留める、もしくは U ターンを見込む取り組みが引き続き必要となります。
- ・年少人口のうち 5～14 歳は目標人口を超過して推移しています。この世代の将来的な転出を抑制するために、この世代に対するアプローチが必要となります。

寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り

第 1 期総合戦略の成果（概況）

2020 年 4 月時点の人口の状況

	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	（高齢化率）
人口実績	48,743	6,299	29,189	13,255	27.2%
目標人口	48,465	6,453	28,587	13,425	27.7%
推計人口	48,048	6,107	28,516	13,425	27.9%

第 1 期総合戦略の取り組み成果として、2020 年 4 月時点における総人口は推計人口、目標人口を超えて推移しています。また、年少人口は目標値に届かないものの、生産年齢人口、高齢化率では目標値を達成していることから、人口の視点では第 1 期総合戦略の取り組みによる一定の成果が上がっていると考えられます。

基本目標に定める KGI の達成状況（率）

	100%以上	90-99%	50-89%	50%未満
基本目標 1	2	1	0	0
基本目標 2	2	0	0	0
基本目標 3	0	2	0	0
基本目標 4	1	1	1	0
計	5	4	1	0

※KGI：Key Goal Indicator（重要目標達成指標）

人口ビジョンにおける目標人口等の達成に向け、第 1 期総合戦略では 4 つの基本目標を掲げ、その取り組み目標を計測する数値目標として 10 の指標（KGI）を設定しました。

各指標の達成状況として、100%以上達成した指標は 5 つ、90%以上 100%未満の達成率となった指標は 4 つ、50%以上 90%未満の達成率となった指標は 1 つでした。

目標に達しない指標もありますが、概ね目標値に近い達成率となっていることから、KGI の視点からも第 1 期総合戦略の取り組みによる成果は上がっており、人口動態にも一定程度寄与しているものと考えられます。

各基本目標における状況

基本目標 1 ～地域全体で「さむかわ」の経済成長を支え、安定した「しごと」を育みます～ KGI の状況

数値目標【KGI】	現状値	目標値	実績値	達成率
町内企業等（法人）の従業員数	18,592 人 (H26)	18,592 人	16,913 人 (H31)	91.0%
製造品出荷額等	3,168 億円 (H25)	3,338 億円	4,117 億円 (H31)	123.3%
年間商品販売額	506 億円 (H24)	506 億円	828 億円 (H29)	163.6%

※年間商品販売額については直近の確定数値（経済センサス活動調査）が H29 のため H29 時点の数値を掲載しています。

KPI の状況

事業名	指標名【KPI】（単位）	基準値 (H26)		H31 (R1)	達成率
エコノミック ガーデニング 推進事業 （企業総合支 援事業・創業 支援事業）	支援メニュー利用数（件）	74 (H24~26 平均)	実績値	127	97.7%
			目標値	130	
	販路拡大支援数（件）	2	実績値	25	208.3%
			目標値	12	
	新規事業所届出数（件）	63	実績値	73	91.3%
			目標値	80	
	創業に関する支援数（件）	1	実績値	41	585.7%
			目標値	7	

【計画期間における主な取り組み】

寒川町地域経済コンシェルジュを設置し、製造業を中心に企業訪問を行うほか、支援を希望する中小企業に対し、事業計画作成支援や事業継承支援等の個別企業ごとのきめ細やかな支援を行いました。また、各種セミナーの実施や次世代経営者研究会・勉強会の設置と運営支援を行うなど、町内中小企業が主体となる交流ネットワークを整備するほか、支援機関を構成員とする寒川エコノミックガーデニング推進協議会（コンソーシアム）の設置・運営、寒川エコノミックガーデニングポータルサイトの開設運営等、これらを取り巻く連携支援ネットワーク、情報発信体制を確立させました。



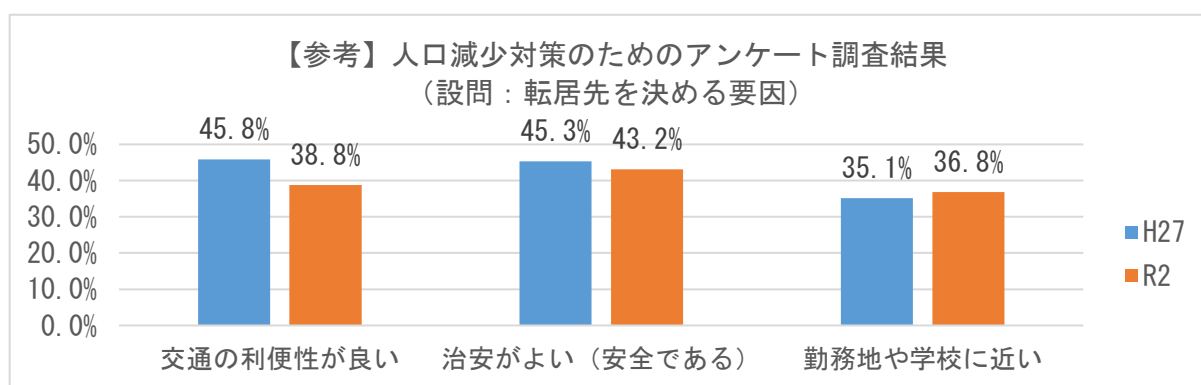
次世代経営者研究会の様子

【指標の達成状況に関する分析】

KGI のうち、1 番目の指標は町内における雇用機会の確保の状況を表し、2・3 番目の指標は地域経済の発展の状況を表しています。こうしたなか、KGI の状況としては、町内企業等（法人）の従業者数では、目標数値未達成という状況ですが、このほかの 2 指標については目標値を達成しています。当該指標（KGI）については、景気など社会経済環境等の影響に左右されやすいものではありませんが、寒川町の地方創生における「しごと」の状況としては、上向いていると言えます。

また、KPI に着目すると、「支援メニュー利用数」は目標に届かないものの、概ね目標を達成しており、行政の取り組みが町内企業に届いている状況にあると言えます。その結果、「販路拡大支援数」や「創業に関する支援数」は目標を大きく上回る状況となっており、具体的な支援としても実を結びつつあると言えます。その成果として、「新規事業所届出数」としては目標値には届かないものの増加傾向にあり、交付金 KPI である「製造業で法人町民税の法人割を納めている企業数」（※エコノミックガーデニング推進事業の効果検証シートを参照）も目標値 90 件に対し 102 件と増加傾向にあり、町内の黒字企業が増えている状況が分かります。こうした取り組みも一定程度寄与し、寒川町の「しごと」（地域経済）は活性化している状況にあると考えられます。しかしながら、「町内企業等（法人）の従業者数」については目標未達成であることから、移住・定住を見据えた地域の雇用確保という点では一定の課題があると考えられます。

基本目標 1 の人口動態への影響として、直近の人口動態の特徴として 30 代のファミリー層の転入増への寄与が考えられるところですが、別に実施した「人口減少対策に関するアンケート調査」（R2 年 4～5 月実施）の結果、転居先を決める要因として「勤務地や学校に近い」ことが 3 番目に多い（36.8%：前回比増）ことから、寒川町における「しごと」の状況が一定程度寄与している可能性もあると考えられます。



基本目標 2 ～「さむかわ」を知ってもらい、新しい人の流れをつくります～

KGI の状況

数値目標【KGI】	現状値	目標値	実績値	達成率
転入者数	1,920 人 (H22～26 平均)	2,000 人	2,234 人 (H31)	111.7%
総人口	48,114 人 (H31 推計値)	48,451 人	48,743 人 (H31)	100.6%

KPI の状況

事業名	指標名【KPI】 (単位)	基準値 (H26)		H31 (R1)	達成率
観光推進事業	観光入込客数 (万人)	187	実績値	216	93.9%
			目標値	230	
タウンセールス推進事業	定住等促進に向けたプロモーション活動メニュー数(累計) (件)	—	実績値	7	100.0%
			目標値	7	

【計画期間における主な取り組み】

神輿まつり、びっちょり祭り、産業まつりなど、既存のイベントのブラッシュアップに加え、各種 PR 活動を行うなどして、観光客の誘導を行うとともに、観光案内板の設置など、町内観光の環境整備を行いました。

また、こうした町の魅力を発信するとともに、移住定住のためのマーケティングに特化した部門として広報戦略課を設置し、マーケティングマネージャー2 名を登用しました。町の新たなブランドスローガンとして『高座』のころ。を発表するとともに、認知度向上のための移住ポータルサイト、ガイドブック、PR 動画等の作成や SNS 等を中心とした戦略的なプロモーション活動を行うほか、ストリートスポーツの世界大会 ARK LEAGUE (アークリーグ) を首都圏初となる寒川町で開催するなど、認知度向上に向けた各種取り組みを戦略的に実施しました。



町ブランドマークの展開

【指標の達成状況に関する分析】

基本目標 2 では、町の認知度向上や情報発信力の強化による新しい人の流れとしての「転入者数」とその結果としての「総人口」を KGI として設定しています。

KGI の達成状況としては、ともに目標を達成し大きな成果が表れていると言えます。「転入者

数」は増加傾向にあり、また取り組みの前後を比較すると、それまでは寒川町の傾向として社会減（転出＞転入）の傾向が続いていましたが、第 1 期計画の計画期間においては社会増（転出＜転入）に転じ、以降その傾向が続いています。自然増減がマイナス（2019 年：△86 人）の状況にあっては、基本目標 2 における社会増減のプラス（2019 年：+237 人）がこれを補っているというのが寒川町の人口動態の特徴です。

KPI の状況に着目すると、「観光入込客数」は増加傾向にあるものの目標には達していません。一方、「定住等促進に向けたプロモーション活動メニュー数」は目標を達成し、予定通りのメニュー数により各種情報発信を行っています。

プロモーション活動メニューのうち、特に Web を活用した情報発信については、各種観光イベント等と連携し、積極的な情報発信を行っています。代表的なものとして、町公式 Instagram（フォロワー数：約 10,000 人）では、これらのイベントに関する投稿を定期的に行うことで、寒川町の魅力発信とともに町外在住者の具体的なアクション（「イイね」やリアクションコメント）を獲得し、町の認知度向上に寄与しています。

町公式 Instagram のフォロワーは約 98%が町外在住者であり、その年齢層としては 35～44 歳の年齢層が多く、町の移住ターゲットと近い層であることから、町外に対する情報発信として有効に機能していると言えます。

このことから、町のブランド展開や観光資源・各種イベントなど町の魅力創出とプロモーション活動の流れは有効に機能し、KGI（転入者数、総人口）の達成にも一定程度有効に寄与しているものと推測されます。また、今後は SNS のフォロワーや投稿者への町からの積極的なアプローチがより重要となってくると言えます。

（参考）町公式 Instagram に対して寄せられた「イイね」の件数（例）

イベント名	「イイね」の件数
神輿まつり（2019 年）	1,298 件
びっちょり祭り（2019 年）	2,045 件 ※2 回投稿合計
彼岸花まつり（2018 年）	2,053 件
ARKLEAGUE（2019 年）	3,489 件 ※3 回投稿合計
冬のひまわり	1,547 件（2018 年）、 2,941 件（2019 年） ※3 回投稿合計

基本目標 3 ～子育て世代が安心して子どもを産み育てやすい環境をつくります～

KGI の状況

数値目標【KGI】	現状値	目標値	実績値	達成率
合計特殊出生率	1.37 (H25)	1.60	1.32 (H30)	91.3%
年少人口	6,100 人 (H31 推計値)	6,500 人	6,299 人 (H31)	96.9%

※合計特殊出生率については直近の確定数値が H30 のため H30 実績を掲載しています。

KPI の状況

事業名	指標名【KPI】（単位）	基準値 (H26)		H31 (R1)	達成率
	小児医療費及び妊婦健康診査 費用に対する助成率（%）	100	実績値	100	100.0%
			目標値	100	

結婚・出産・子育て環境整備事業	乳幼児が良好に過ごせる保育確保量の増加率（％）	-	実績値	30.3	159.5%
			目標値	19	
	待機児童数（人）	10	実績値	5	50.0%
			目標値	0	
	不育症治療費助成対象者の出産若しくは妊娠安定期に結びついた人数（累計）（人）	0	実績値	2	20.0%
			目標値	10	
	3歳6ヶ月健診でう蝕のない児の割合（％）	83.8	実績値	87.1	99.0%
			目標値	88	
	子育て世代包括支援センターにおける支援の必要性の高い妊婦への支援実施率（％）	-	実績値	100	100.0%
			目標値	100	
家庭教育推進事業	学校授業以外の勉強時間が1時間以上の割合・小学校（％）	43.8	実績値	48.4	100.8%
			目標値	48	
	学校授業以外の勉強時間が1時間以上の割合・中学校（％）	60.8	実績値	61	93.8%
			目標値	65	
学力向上推進事業	基礎力定着度確認問題の正答率・小学校（％）	77.1	実績値	74.2 (H30)	92.8%
			目標値	80 (H30)	
	基礎力定着度確認問題の正答率・中学校（％）	56.9	実績値	61.9 (H30)	103.2%
			目標値	60 (H30)	
子育て応援環境整備事業	さむかわ男女共同参画プラン実施計画の各事業の年度別目標値達成率（％）	100 (H25 実績)	実績値	64	64.0%
			目標値	100	
	子育て支援に関する団体等への支援数（累計）（件）	0	実績値	12	120.0%
			目標値	10	

※実績値がH30となっている指標は、新型コロナウイルス感染症の影響で調査を実施できなかったためH30実績を掲載しています。

【計画期間における主な取り組み】

子どもを望む家庭への支援として、特定不妊治療、不育症に関する助成を行うほか、産婦健診や新生児聴覚検査、う蝕予防に関する助成や、町保健師等によるきめ細やかな健診など、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを行いました。また、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、小児医療費（通院）の対象年齢を小学6年生から中学3年生にまで引き上げるほか、認定こども園等の新規開所等による町内保育確保量の増加、旧町立保育園の大規模改修など、保育環境の質的量的向上を進めました。

学齢期の子どもに対しては、少人数学習の実施や教育フロンティア専門指導員（校長・教頭経験者による若手教員の支援）の配置による教員の資質向上、全国に先駆けた町内小中学校への空調機導入などの教育環境の改善、0～15歳の子を持つ世帯を対象に発達段階に応じた子育て・家庭学習のポイントをまとめたハンドブックを作成、配布するなど、基礎的学力の向上を図りました。



小中学校への空調機設置

【指標の達成状況に関する分析】

妊娠から出産・子育て・学齢期まで、安心して子育てできる環境づくりとして、人口の自然増（出生）に寄与する合計特殊出生率と社会増（転入）も含めた年少人口をKGIとしています。

合計特殊出生率の状況としては、直近の数値（H30）では目標未達成となっており、2013年（現状値）を下回る状況となっています。しかしながら、計画期間（2015～2018）におけ

る平均値としては 1.41 であり、目標には達しないものの、県内平均及び近隣自治体と比べても同水準となっていることから、大きく劣っている状況にはありません。

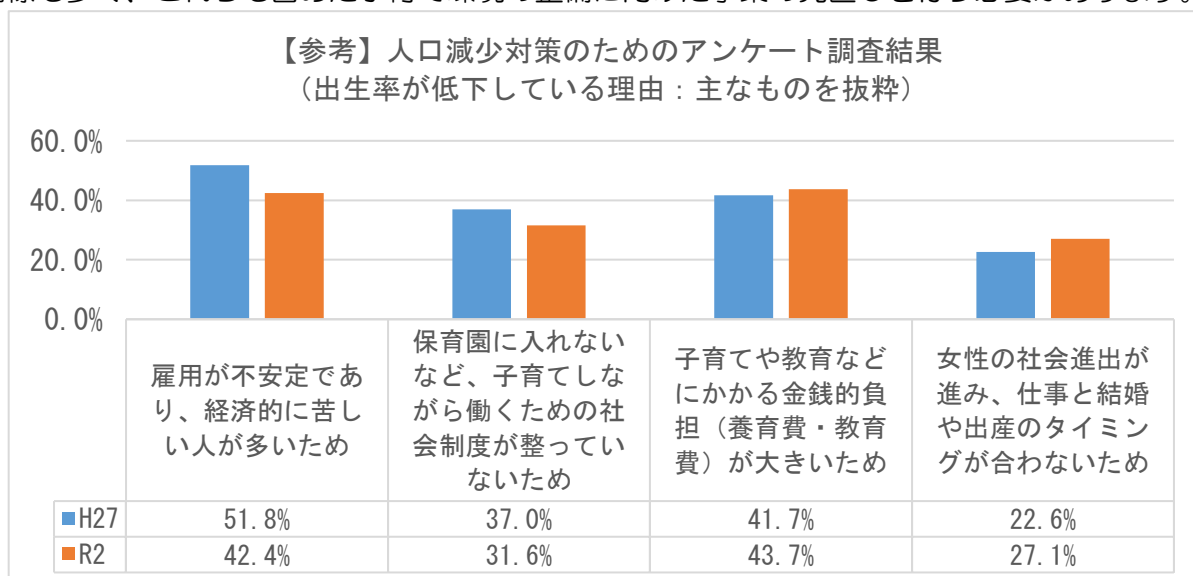
(参考) 県内及び近隣自治体の合計特殊出生率

	2013 (H25) 基準値	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2015-2018 平均
寒川町	1.37	1.60	1.25	1.46	1.32	1.41
茅ヶ崎市	1.41	1.35	1.39	1.32	1.40	1.37
藤沢市	1.37	1.39	1.42	1.38	1.40	1.40
海老名市	1.32	1.38	1.41	1.35	1.45	1.40
平塚市	1.25	1.24	1.24	1.27	1.23	1.25
神奈川県	1.28	1.33	1.31	1.29	1.28	1.30

これは、小児医療費助成の対象者拡充や保育確保量の増加、子育て世代包括支援センターにおけるきめ細やかな支援などの KPI 達成状況から、出産・子育てにおける経済的・心的負担が一定程度軽減されたことによるものと推測されます。

このうち、別に実施した「人口減少対策に関するアンケート調査」(R2 年 4～5 月実施)では、「出生率が低下している主な要因」のうち主だったものとして、保育園等の環境整備に関するものが前回調査時よりも減少していることから、KPI「乳幼児が良好に過ごせる保育確保量の増加率」の成果が一定程度 KGI に効果を及ぼしているものと推測されます。一方、養育費・教育費といった金銭的負担に関するものは若干増加していることから、これについては、さらなる負担軽減について検討が必要です。また、女性の社会進出の進展による仕事と出産・子育ての両立については、前回より増えており、KPI「さむかわ男女共同参画プラン実施計画の各事業の年度別目標値達成率」についても、目標未達成であるため、指標の設定も含めて抜本的に取り組みの見直しが必要であると考えます。

このほか、待機児童数や不育症等の利用者数、幼児に対する災害の備えの割合など、未達成の指標も多く、これらも含めた子育て環境の整備に向けた事業の見直しを行う必要があります。



年少人口の状況としては、合計特殊出生率が目標未達成であることから、0～4 歳で目標を下回って(推計人口は超過して)いるものの、5～14 歳では転入超過の状況もあり、目標人口を超過しています。また、子育て支援策のほか、小中学校への空調機の設置など教育環境の整備により、学力向上推進事業などの KPI は概ね目標を達成し上昇傾向にあることから、他

自治体から子育て世帯の転入を呼び込むための環境整備は進んでおり、KGI にも一定程度寄与しているものと推測されます。しかしながら、KGI 未達成である状況を鑑み、学校教育を始めとした安心して子育てできる環境整備、転入を呼び込む環境整備について検討を行う必要があります。特に、5～14 歳の転入超過は寒川町の特長でもあることから、この層を子どもに持つファミリー層をターゲットにしたニーズの高い教育内容の提供が効果的であると考えられるため、今後さらに検討していく必要があります。

基本目標 4 ～発展し続けるまち「さむかわ」をみんなでつくります～

KGI の状況

数値目標【KGI】	現状値	目標値	実績値	達成率
刑法犯罪件数	417 件 (H26)	359 件	247 人 (H31)	145.3%
若い世代からの意見を町政に反映した件数	0 件 (H26)	10 件	7 件 (H31)	70.0%
公共交通網に関する満足度	31.2% (H26)	40.0%	38.2% (H29)	95.5%

※公共交通網に関する満足度は、アンケート実施年度が当初想定から変更したため、H29 時点の数値を掲載しています。

KPI の状況

事業名	指標名【KPI】（単位）	基準値 (H26)		H31 (R1)	達成率
安心なまちづくり整備事業	空き巣、自転車盗、ひったくりの年間発生件数（件）	170	実績値	83	174.7%
			目標値	145	
若者参画推進事業	若い世代による協働に向けた取り組み件数（累計）（件）	1	実績値	6	120.0%
			目標値	5	
公共交通環境整備事業	寒川町内の駅バリアフリー対策率（%）	66.6	実績値	66.6	66.6%
			目標値	100	
	コミュニティバス土・日曜日運行乗降客数（人/日）	207 (平日)	実績値	131	66.8%
			目標値	196	

【計画期間における主な取り組み】

安心して暮らせるまちづくりとして、防犯パトロールや防犯灯の設置推進を行いました。また、寒川町では地域のつながりが比較的保たれていますが、20～24 歳での転出傾向が強いことから、若い世代を地域に繋ぎとめるための取り組みとして、若者参画コミュニティ「まちびとすたいる」を創設・連携し、様々なイベント、ワークショップ等を実施しました。また、計画策定時の町民アンケート調査の結果では、転出先を決める際の判断基準として「交通利便性」との回答が高い割合を占めていることから、JR 倉見駅のバリアフリー化を進めるとともに、コミュニティバスの新規路線の設定による交通不便地域の解消や町ブランドに沿ったラッピングバスの導入やバス停の更新を行うなど、利用促進を図りました。



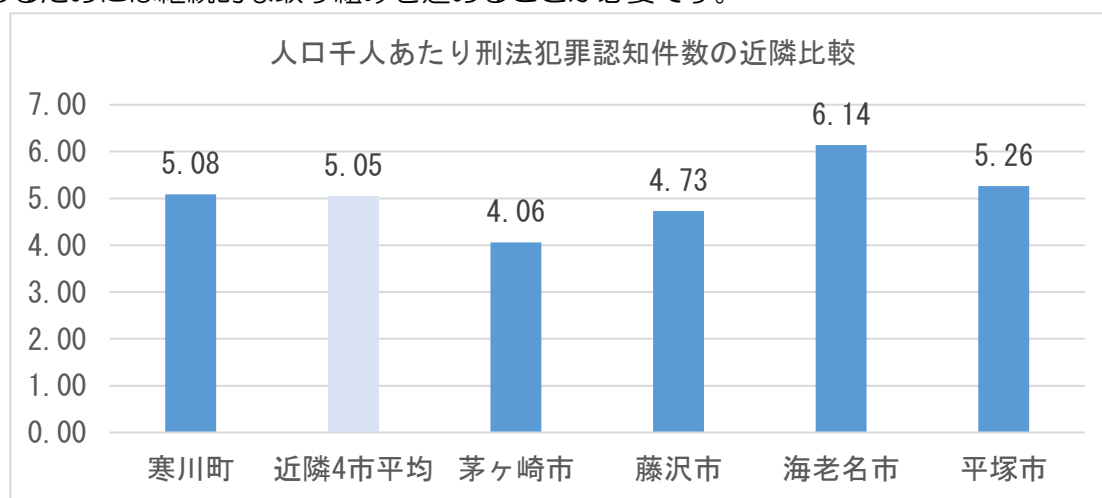
ラッピングバスの導入

【指標の達成状況に関する分析】

寒川町の総合戦略における「しごと」「ひと」を支える、安心して快適に暮らせる「まち」づ

くりとして、人口動態の特徴やアンケート調査の結果から、治安のよさ、若者による地域づくりのための方策、交通等の利便性を KGI として設定しています。

このうち、「刑法犯罪件数」については防犯灯の設置や防犯パトロールの実施等により、KPI「空き巣、自転車盗、ひったくりの年間発生件数」とともに着実に減少し、目標値を大幅に達成しています。「刑法犯罪件数」は、基準値（2015 年）では 1 日に 1 件以上発生している計算でしたが、現状では 1 日あたり 1 件以下（約 0.7 件）となるなど、状況は改善しています。また、「空き巣、自転車盗、ひったくりの年間発生件数」は、基準値（2015 年）では 1 週間に約 3 件発生している計算でしたが、現状では 1 週間に約 1.5 件と、半数以下に減少しています。一方、14 ページの「人口減少対策に関するアンケート調査」（R2 年 4～5 月実施）の主な転居要因では、「治安」に関する重要性は依然高い状況であることと、近隣自治体と比較して寒川町の刑法犯罪認知件数は平均的な数値であることから、魅力的で安心して暮らせるまちづくりを進めるためには継続的な取り組みを進めることが必要です。



（神奈川県警察刑法犯 罪名別市区町村別 認知件数）

KGI「若い世代からの意見を市政に反映した件数」については、目標値 10 件に対し 7 件と目標未達成となっていますが、これに対応する KPI「若い世代による協働に向けた取り組み件数（累計）」は目標を達成し、若者が地域でまちづくりに参画する素地は出来つつあると言えます。しかしながら、KGI の方が未達成であることから行政側の体制に課題がある可能性があります。また、これらの活動を担う若者参画コミュニティ「まちびとすたいる」では 30～40 代を中心に活動しています。当町における転出のピークは 20 代にあるため、当該事業として今後 20 代以下の層に対し、いかにしてアプローチできるかが課題となります。



「まちびとすたいる」の様子

KGI「公共交通網に関する満足度」については、直近の数値が平成 29 年度時点のものとなっていますが、この時点で現状値よりは上昇しているものの、目標値は未達成となっています。一方、KPI「コミュニティバス土・日曜日運行乗降客数」も、上昇傾向にあるものの目標未達成の状況となっています。14 ページの「人口減少対策に関するアンケート調査」（R2 年 4～5 月実施）の主な転居要因として計画策定当初に最も高かった「交通利便性」は、今回調査で 7 ポイント減少するなど、移住定住における公共交通に関するニーズが変わってきている可能性があります。このことから、新たな公共交通のあり方などについても検討を行う必要性があります。

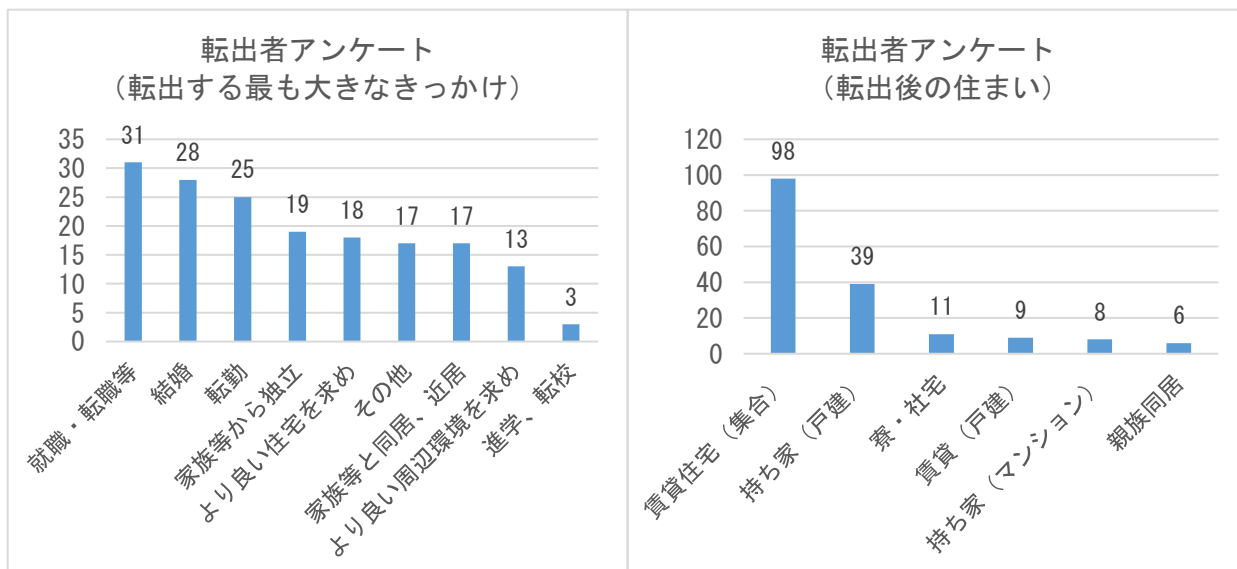
さらに、これらの取り組み以外にも、新型コロナウイルスの感染状況も踏まえ、with コロナ時代に対応したまちづくりについても検討を行い進めていく必要があります。

第2期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略への課題

第1期計画期間における状況としては、人口動態は目標人口を超えて推移しており、順調であると言えます。しかしながら、基本目標3における合計特殊出生率や年少人口については、目標を達成できていない状況にあることから、課題として第2期計画においても取り組み内容を見直す必要があります。

具体的には、年少人口獲得に向けた子育て世帯に対する経済的負担の軽減や仕事との両立支援、5～14歳の子どもを持つ世帯のニーズも踏まえた魅力的な教育内容の充実などが必要です。

また、依然として20代の転出が多く、特に20～24歳の女性については転出超過の状況にあります。寒川町が別に行っている転出者アンケートの結果では、これらの転出者の転出に至る最も大きなきっかけは就職や転勤など仕事に関するもので、次いで結婚となっています。一方、転出後の住まいの傾向としては、賃貸住宅が最も多いことから、仕事等の都合で町外に転出しつつも結婚や住宅購入などの際に再度町内に呼び込むことも可能であると考えられます。そのため、これらの層にとって生まれ育った地域が魅力的であるための取り組みの推進を進める必要があります。



また、喫緊の社会環境として、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、with コロナ時代において安全・安心、快適に暮らすための ICT 技術等の活用推進についても進めていく必要があります。

このほか、KGI・KPI の達成状況から順調に推移している基本目標1、基本目標2については、エコノミックガーデニング推進事業や町のブランディングも含めたタウンセールス推進事業を中心に、第2期計画においても、指標等については一部見直しを行いながら、継続的・発展的に推進していきます。

第2期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、効果的・効率的な推進のため、新たな総合計画「寒川町総合計画2040」と一体的に策定・推進する予定であることから、この総合計画におけるまちの将来像「つながる力で新化するまち」の実現を念頭に、自治体としての持続可能性を確保しつつ、町民の「こころ豊かな暮らし」に資する取り組みを推進していきます。